



産業建設常任委員会報告

開会中の委員会審査

平成21年12月22日

委員長 田村計久

収納率が93%以下だと国からの交付金が5%カットされる。91%以下だと7%のカットである。湯沢町の20年度の収納率は91.2%だったので、3003万円のカットを受けた。

基金の現状。20年度末は8000万円あったが、21年度の予算を組むに際し3000万円取り崩して、残は5000万円になった。その後国からの還付金があったので、現在の残高は6500万円である。

3 湯沢病院の療養病床の現状

湯沢病院の4階・50床の療養病床は、国の療養病床廃止の方針に従って老健施設への転換を予定していたが、政権交代後の国の方針転換もあって、現状の療養病床50床のまま行くことになった。

●議案第82号
○字の変更について

■審査の結果
「賛成全員で可決すべきものと決定」

三俣大島川原1382-1と1382-2を三俣大島に字の変更をするもの。

●議案第81号
○湯沢町下水道条例の一部を改正する条例の制定について

■審査の結果
「賛成多数で可決すべきものと決定」

下水道料金を全体で12.18%値上げして、約3,300万円の収益増をはかり、老朽化した施設の改修費にあて、一般会計よりの負担を減らすもの。

主な質疑

Q…未接続の解消努力やマンシヨンの接続、工事費の見積のずさんさ、会計処理の値上げのための配慮など、値上げのための条件整備ができていない。
A…下水道会計の財政状況が

悪く、施設の老朽化のための改修工事が多額になる。一般会計も今後減収が続くので、下水道会計への繰り入れが大きな負担になるため、受益者の皆様に一部負担をお願いしたい。

未接続者に対する動きとして、戸別訪問やチラシ、広報で対応しているが、今後事業者の皆様にも協力いただき接続の増をめざしたい。

●議案第87号
○平成21年度下水道特別会計補正予算(第2号)について

■審査の結果
「賛成全員で可決すべきものと決定」

総額に歳入歳出それぞれ70万円を追加し、歳入歳出予算の総額をそれぞれ11億2,032万5千円とするもの。マンシヨンの接続分担金70万円の増収。

主な質疑

Q…マンシヨンの接続のための働きかけはしているか。
A…現在も申し込みの問い合わせはある。22年3月までに今後の受け入れについて結論を出したい。

●議案第88号
○平成21年度水道事業会計補正予算(第2号)について

■審査の結果
「賛成全員で可決すべきものと決定」

収益的収入に192万7千円増額し3億9,080万7千円とし収益的支出は230万9千円増の4億104万6千円。資本的収入はマンシヨンメーターの設置745万5千円の増で、015万6千円とするもの。

●請願第9号
○EPA、FTA推進路線の見直しを求め、日米FTAの推進に反対する請願

■審査の結果
「賛成多数で採択すべきものと決定」

日本の食糧安全保障及び日本の農業を守り、食糧主権に基づいた貿易ルールと農業、食糧政策の確立のために、これまでのEPA、FTA推進路線を見直すとともに、アメリカとのFTA交渉は行わないこと。

議会中以外に行われた委員会報告

平成21年11月20日
1 三俣地域振興対策について

三俣地域振興対策の経過説明で、主に道の駅、清津川護岸整備について説明を受けた。

●政権交代で事業の影響はあるか。道の駅の事業費と町の負担はいくらか。2億6,600万円で計画した事業はできるのか。

●政権交代による影響は不透明である。道の駅については建物の詳細が決まらないと町の負担も決まらない。用地については3,500㎡で地権者は7名、説明済みである。国県、町の区分が決まらないと負担額は決まらない。道の駅については22年度用地買収、外交工事着手、23年10月ごろ公設民営でオープンの計画である。

●道の駅でどのくらいかかるか未定であるが、2億6,600万円は先行する事業で優先的に使い、予算内での事業とする。

下水道や道路整備のような通常のインフラ整備については町の予算で行う。

●河川についての状況は。●目に見える事業は進んでいないが、用地が確定すれば用地買収と外溝工事が着手できる。●国は護岸整備着手を望んでいる。

●国は護岸整備着手を望んでいる。